

大野市小中学校施設管理計画（案）概要

大野市教育委員会教育総務課

1 計画の背景及び目的

文部科学省は、平成27年3月に「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定し、施設管理者に公立学校施設の維持管理・更新などの中長期的な取組みを明らかにする個別施設計画の策定を求めました。

大野市においては、国の「インフラ長寿命化基本計画（平成25年11月策定）」に基づき、公共施設とインフラ資産の適正配置を踏まえた維持管理や中長期的な財政負担の軽減と平準化を図るため、平成29年3月に「大野市公共施設等総合管理計画」を策定しました。その後、総合管理計画に基づく施設類型ごとの個別施設計画として「大野市公共施設等総合管理計画（個別施設計画編）」を平成30年3月に策定、令和3年3月には改訂し、公共施設のインフラ長寿命化対策に取り組んできました。

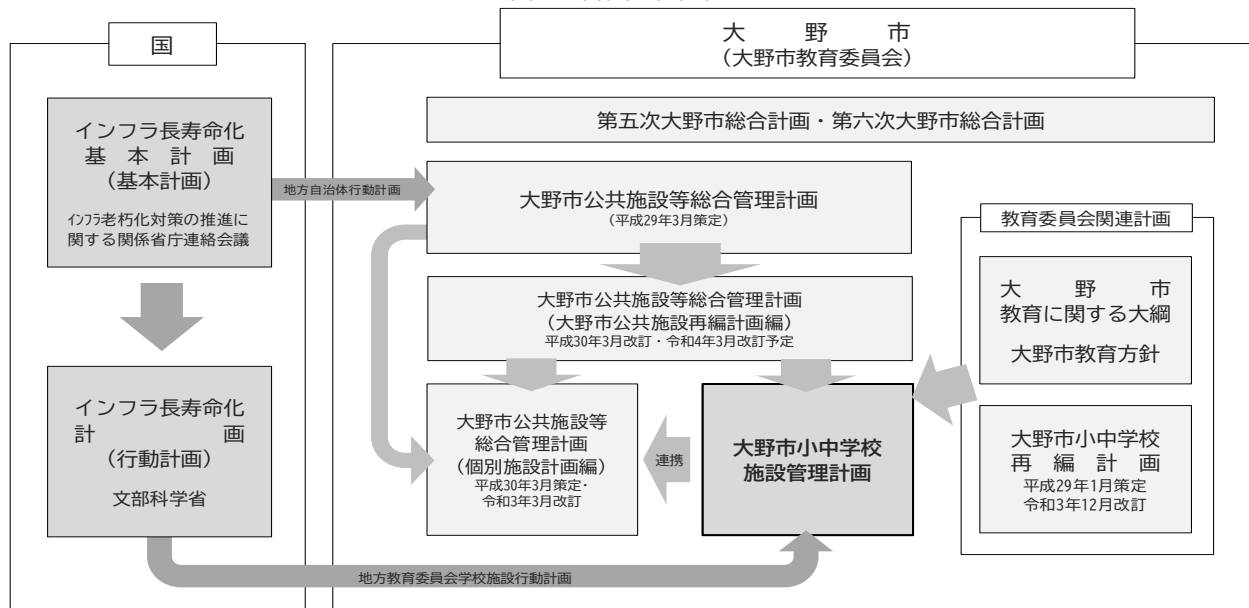
大野市教育委員会においても、学校施設の老朽化対策及び継続的な改修は必須となっており、令和3年12月に大野市小中学校再編計画を改訂したことを踏まえ、再編後の学校数や施設の老朽化状況も見通しつつ、安全性を最優先として、計画的に小中学校の改修を進めるため「大野市小中学校施設管理計画」を策定します。

2 計画の位置付け

本計画は、大野市公共施設等総合管理計画を上位計画とし、文部科学省が求める学校施設の長寿命化計画（個別施設計画）として、大野市内小中学校施設の個別施設計画を定めます。

また、本計画では、大野市小中学校再編計画に基づく学校施設の改修計画を定めます。

図1 計画の位置付け



3 計画の期間

本計画の期間は、令和4年度から令和13年度までの10年間とします。

ただし、大野市公共施設等総合管理計画や大野市小中学校再編計画の進捗状況、社会情勢の変化などに応じて適宜に必要な見直しを行います。

4 学校施設の老朽化の実態

(1) 構造躯体の実態

令和2年度に、建物の劣化状況を把握するため、昭和の年代に建築された校舎や体育館のコンクリート壁の圧縮強度と中性化状況の調査を行いました。尚徳中学校の校舎を除き全ての学校施設の構造躯体は、今後適切に維持管理すれば、80年程度までの使用に適したコンクリート強度を持っていることが判明しました。

表1 構造躯体の劣化状況調査の結果（抜粋）

調査名	基準値	調査内容	学校名	調査箇所	調査結果
圧縮強度試験	13.5KN/mm ² 以上	アに圧縮力を加え、破壊時の強度を調べる。基準値を下回る建物は、耐用年数を超えて使用する長寿命化には適さない。	尚徳中学校	南校舎1階西階段室	12.7 KN/mm ²
中性化試験	深さ(平均値) 30mm以内	アにフェノールカルシウム溶液を噴霧し、表面からどのくらい中性化が進行しているのかを調べる。コンクリートは元々アルカリ性で中性化が進むと、中の鉄筋が錆び、体積の膨張によりコンクリートがひび割れる。	尚徳中学校	北校舎1階東階段室	53.7mm
				南校舎2階東階段室	44.4mm
				南校舎2階西階段室	41.4mm
				北校舎2階東階段室	60.6mm

(2)建物（構造躯体以外）及び設備の実態

建物（構造躯体以外）及び設備の状況を把握するため、文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」に基づき、令和元年度及び2年度に、建物・設備などの劣化状況を調査しました。

その結果、建物の外壁や屋根・屋上、床や内壁などの内装仕上げ、水道やトイレ設備、照明などの電気設備などについて、全ての小中学校において、改修又は補修が必要となる経年劣化が見られます。

表2 学校施設の劣化状況表

学校名	建物名	構造	階数	延床面積(m ²)	建築年度	建築経過年数 (R3.4.1時点)	劣化状況の評価					健全度 (100点満点)
							屋根・屋上	外壁	内部仕上げ	電気設備	機械設備	
有終小 西校	普通教室棟	S造	1	2,517	H18	14	C	D	C	C	D	28
	特別教室棟	S造	1	2,071	H18	14	B	B	C	C	C	53
	プール・講堂・屋内体育館棟	S造	2	4,338	H18	14	C	D	C	C	D	28
有終小 南校	特別教室棟(北)	RC造	3	3,189	S55	40	A	C	B	C	B	62
	普通教室棟(中)	RC造	3	1,091	S55	40	A	C	B	B	B	67
	普通教室棟(南)	RC造	3	1,322	S55	40	A	C	B	B	B	67
	屋内体育館	RC造	1	1,257	S56	39	A	C	B	B	B	67
有終小 東校	特別教室棟	RC造	2	2,469	S53	42	C	C	B	B	B	62
	普通教室棟	RC造	3	2,402	S53	42	B	C	B	B	B	65
	屋内体育館	RC造	1	1,267	S53	42	C	C	C	C	C	40
小小学 山校	玄関棟	RC造	2	325	S62	33	C	B	B	B	B	72
	管理・特別教室棟	RC造	2	903	S62	33	B	B	B	B	B	75
	普通教室棟	RC造	2	1,047	S62	33	C	B	B	B	B	72
	屋内体育館	RC造	1	895	S62	33	B	B	B	B	B	75
下小学 庄校	普通教室棟(南)	RC造	3	2,580	S59	36	A	B	C	B	B	64
	普通教室棟(北)	RC造	3	2,611	H21	11	A	C	A	A	A	83
	体育館	RC造	1	1,260	H1	31	B	B	B	B	B	75
上小学 庄校	特別教室棟	RC造	3	1,967	S57	38	B	B	B	B	B	75
	普通教室棟	RC造	3	1,747	S57	38	B	C	B	B	B	65
	屋内体育館	RC造	1	1,213	S57	38	C	C	C	C	C	40
阪小学 谷校	特別教室棟	RC造	2	1,330	S55	40	C	D	C	C	B	36
	普通教室棟	RC造	1	728	S55	40	B	B	B	B	B	75
	体育館	RC造	1	736	S56	39	B	C	B	B	B	65
富小学 田校	普通教室棟	RC造	2	1,781	H15	17	B	B	A	A	C	83
	特別教室棟	RC造	2	819	H14	18	A	B	A	A	C	86
	ランチルーム	W造	1	369	H14	14	A	B	A	A	A	93
	体育館	RC造	1	724	S51	44	B	B	C	C	C	53
開中 成校	特別教室棟(北)・便所棟(東)・玄関棟	RC造	3	3,056	S49	46	B	B	B	C	B	70
	特別教室棟(西)	RC造	1	351	S50	45	B	B	B	B	B	75
	普通教室棟・便所棟(西)・給食棟	RC造	3	2,358	S48	47	B	B	C	C	C	53
	屋内体育館	RC造	2	1,586	S50	45	D	B	B	B	B	70
陽中 明校	管理・特別教室棟	RC造	3	2,504	S47	48	B	C	C	C	C	43
	特別教室棟	RC造	2	428	H3	29	B	B	C	B	B	62
	普通教室棟	RC造	3	2,764	S46	49	B	D	C	C	C	34
	屋内体育館	RC造	1	1,474	S48	47	B	B	C	C	C	53
上中 庄校	普通教室棟	RC造	2	1,895	S61	34	C	B	B	B	B	72
	特別教室棟	RC造	2	653	S61	34	A	C	B	B	B	67
	管理室棟	RC造	1	340	S61	34	A	B	B	B	B	77
	屋内体育館	RC造	1	1,217	S62	33	A	B	B	B	B	77
尚中 徳校	玄関棟	S造	2	346	H13	19	B	A	A	A	A	98
	普通教室棟	RC造	2	1,420	S36	59	B	C	C	C	C	43
	管理室棟	RC造	3	1,620	S37	58	B	C	C	C	C	43
	便所棟	S造	1	152	H18	14	B	A	A	A	A	98
	屋内体育館	S造	1	1,307	H13	19	A	B	A	A	A	93
和泉中 小校	校舎	RC造	3	3,009	H17	15	A	B	B	A	B	81
	特別教室棟	RC造	3	678	S62	33	B	B	B	B	B	75
	屋内体育館	RC造	2	1,406	S60	35	B	B	B	B	C	71

※劣化状況の評価基準及び健全度は、文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」から引用

◎評価基準・・・目視及び全面的な改修年からの経過年数により学校施設の劣化状況を4段階で評価

- ・ A評価……概ね良好な状況
- ・ B評価……部分的に経年劣化が見られる状況
- ・ C評価……全体的に経年劣化が見られる状況
- ・ D評価……早急に対応する必要がある劣化・不具合

◎健全度・・・5つの部位の評価基準に評価点とコスト配分を定め、100点満点で数値化した評価指標

- ・ 健全度が40点未満は、優先的に長寿命化改修等の対策を講じることが望ましい。
- ・ 健全度の点数に関わらず、C及びD評価は改修又は補修することが望ましい。

5 学校施設の目指すべき姿

大野市では、大野市教育理念「明倫の心を重んじ 育てよう 大野人」を普遍のバックボーンとして、優しく、賢く、たくましい大野人を育てるため、大野市の特色を生かし、大野らしさが生きる教育を進めています。

学校施設においては、大野市が目指す学校教育を実現するための場であるとともに、避難所をはじめとしたさまざまな用途が求められています。また、時代のニーズに柔軟に対応した施設へと転換を図ることが求められています。

これらのことから、本計画では、大野市が目指す学校教育を実現するため、次の4つの視点から、学校施設のあるべき姿の実現を目指します。

表3 学校施設の目指すべき姿

学校施設の目指すべき姿	内 容
(1)安全・安心な学校施設	第一に児童生徒や教職員が安全・安心な学校生活を送れるよう適切に維持管理し、必要な改修及び補修を実施することにより、学校施設の安全性や防災性の確保を推進します。
(2)教育環境の充実	児童生徒が公平で最適な教育を受けることができる権利を保障するため、充実した教育環境を提供することができる学校施設を目指します。
(3)生活環境の向上	児童生徒や教職員が健康的で快適な学校生活を送ることができる学校施設を目指します。また、障がいのある児童生徒が安全かつ円滑に学校生活を送ることができる施設を目指します。
(4)学校施設の脱炭素化	「大野市ゼロカーボンシティ」の実現に向け、学校施設においても、脱炭素化設備への改修や更新、再生可能エネルギー電力などへの切り替えなど脱炭素化に向けた取組みを推進します。

6 学校施設の改修方針

(1)目標耐用年数

学校施設の目標耐用年数は、大野市公共施設等総合管理計画（個別施設計画編）の定めのとおり、鉄筋コンクリート造及び鉄骨造では80年程度とし、木造では50年程度とします。

表4 目標耐用年数の一覧表

建物の構造区分	目標耐用年数
鉄筋コンクリート造（RC造）・鉄骨造（S造）	80年程度
木造（W造）	50年程度

(2)改修対象の施設

大野市小中学校再編計画に基づき、学校再編後の中学校2校（開成・陽明中学校）、小学校7校（有終西・有終南・有終東・下庄・上庄・富田・和泉小学校）を、改修対象の学校施設とします。

なお、廃校となる小中学校は、再編まで必要な補修は適宜に実施し、適切に維持管理します。

(3)改修の基本方針及び改修内容

建物の構造躯体は健全であることから、学校施設の新築や構造躯体の改修は実施しません。構造躯体以外の建物の屋根や屋上防水、外壁、内装仕上げ、電気設備、機械設備などについて、それぞれの学校の劣化状況に応じて必要な改修を行うこととします。

改修に当たっては、「建築物のライフサイクルコスト（一般財団法人建築保全センター発行）」による改修周期を参考に、学校施設ごとに現状を確認しながら、改修内容を決定します。

表5 学校施設の改修内容及び改修周期一覧表

学校施設の目指すべき姿		学校施設の改修内容		
区分	内容	改修項目	改修周期	主な改修内容
(1)安全・安心な施設	安全・安心に過ごすことができる学校を目指します。	屋根・屋上防水、外壁、内壁・床、防火・消防・放送設備、給排水・電気設備、特定天井改修など	15～30年	屋根・屋上防水シート更新、塗装剥がれ、タイル浮き・ひび割れの改修、各種設備更新・法改正で改修が必要となるものなど
(2)教育環境の充実	最適な教育環境を提供することができる学校を目指します。	普通教室・特別教室、特別支援教室、体育館、図書室、ICT環境、グランド、テニスコート、プールなど	15～30年	建具更新を含む多様な指導方法に対応した普通・特別教室や体育館の整備、図書室の改修、グランド表土の入替え、プール槽塗装・ろ過機更新など
(3)生活環境の向上	健康で豊かに過ごすことができる学校を目指します。	トイレ(衛生器具)、ろ-プ・手摺、エレベーター、空調設備、ボイラ設備、駐輪場・駐車場、外構の整備など	15～30年	多機能トイレ洋式化改修、ろ-プ改修(バリアフリー化)、EV設置、空調設備の移設・設置、ボイラ設備更新、駐輪場更新、駐車場舗装整備など
(4)脱炭素化	「大野市ゼロカーボンシティ」の実現を目指します。	LED照明、窓ガラス、断熱化、太陽光発電、設備の省エネ化、県産材活用(木質化)など	15～30年	LED化、二重ガラス更新、再生可能エネルギーの導入、空調設備の省エネ化の実施、県産材を活用した内装の木質化など

7 改修の実施計画

(1)改修の優先順位及び年度別計画

再編の受入側となる開成中学校、陽明中学校、有終南小学校、下庄小学校、富田小学校を優先して改修します。その他の学校施設については、施設の劣化状況を勘案し、有終西小学校及び有終東小学校を優先して改修を行います。

なお、表6のとおり改修を計画することとし、改修に当たっては事前に詳細調査(内容決定)及び実施設計を行います。

表6 年度別改修計画表

学校名	改修初年度の建築経過年数	計画予定年度										
		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
下庄小学校	38年	■	■	■								
開成中学校	49年	■	■	■								
陽明中学校	51年	■	■	■								
有終南小学校	44年		■	■	■	■						
富田小学校	21年		■	■	■	■						
有終西小学校	20年				■	■	■	■	■	■		
有終東小学校	48年				■	■	■	■	■	■		
上庄小学校	46年						■	■	■	■	■	■
和泉小中学校	25年								■	■	■	■

△ 中学校再編
△ 小学校再編

■ 詳細調査(内容決定)・実施設計
■ 改修工事

※有終西小、有終東小、上庄小、和泉小中学校の改修予定年度は、各種調査の結果に基づいて設定しています。

(2)廃校舎の利活用

小中学校再編計画の改訂に伴い、中学校は令和6年4月に上庄中学校、尚徳中学校、和泉中学校が、小学校は令和8年4月に小山小学校、阪谷小学校が廃校になる予定となっています。

学校再編による廃校により、和泉中学校を除く各小中学校施設においては、学校敷地に借地がある場合には、その土地は所有者に返還することを原則とします。また、廃校舎の利活用については、関係者と協議の上、その活用方法を決定します。

なお、和泉中学校は和泉小学校と併設されていることから、引き続き和泉小学校舎などに活用することを計画しています。

8 計画の継続的運用方針

児童生徒や教職員の安全・安心で快適な教育や生活環境を維持するためには、本計画に基づき学校施設の改修を着実に行うだけでなく計画的に施設の点検などを行い、不具合を未然に防止する予防保全型の管理を行うことが重要になります。

このため、各設備の法令定期点検を行うことはもとより、学校施設の劣化状況調査を3年ごとに実施し、劣化状況評価を見直し、施設全体のマネジメントに活用します。

